

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

公開実用 昭和55-136533



(4000円)

実用新案登録願

昭和54年3月20日

特許庁長官 唐谷 敏 殿

1、考案の名称

スクリーン版装置

2、考案者

東京都渋谷区神宮前4-16-2

唐谷 敏 一郎

3、実用新案登録出願人

東京都江東区東陽4丁目8番/5号

日本プロセス工業株式会社

代表取締役 唐谷 敏 一郎

特許庁

54.3.20

出願第一号

4、代理人

東京都港区新橋2丁目9番5号
中銀新橋ビル4階

(5790) 代理人 唐 見 敏 則

電話東京(591)4090-0085番

54 035098

明 細 書

1. 考案の名称

スクリーン版装置

2. 実用新案登録請求の範囲

- (1) 角筒材により適宜の大きさをなす平面口字形の張設枠を形成し、該張設枠の各側面に、複数のボルトを適宜の間隔をもつて遊転可能なようにそれぞれ横貫し、各ボルトに螺挿したナットに、張設枠の内周部に貫設した引張金具の外端を固設するとともに、スクリーンの四週端を平板状をなす巻取バーに止着巻回して、該巻取バー部分を所要長をなす複数の外向き細U字形のテンションバー内に挿入懸止して、各テンションバーを前記引張金具に係合してなるスク

リーン版装置。

- (2) 実用新案登録請求の範囲第1項に記載のスクリーン版装置に於て、

前記引張金具(5)の所要個所に係合突子(4)を突設し、之に対応してテンションバー(8)の停止片(9)に係止用孔(10)を突設し、該係止用孔(10)に前記係合突子(4)を嵌入させることでテンションバー(8)と引張金具(5)とが係合するものである

ことを特徴とするスクリーン版装置。

3. 考案の詳細な説明

本考案は、接着剤を使用することなく、スクリーンを張設枠内へ簡単に張設し、また、反復使用のための洗剤を使用した水洗いや、スクリーンの交換も簡単に行いうるようにしたスクリーン版に関するものである。

スクリーン版は、平面口字形の張設枠内にナイロン、テトロン、ステンレス織条等よりなる高メッシュのスクリーンを張設し、このスクリーンに感光乳剤を塗つて、ボジを当て感光乳剤をアーク灯等で感光させてから水洗いすることにより、感光部のみをスクリーン面に残すようにして使用するものであるが、従来、この張設枠内にスクリーンを張設するには、スクリーンの四周を金具等で引張つて

おきながら、スクリーンを張設枠面に接着剤で接着するようにしているため、一度スクリーンを張設枠に張設すると、その張設度の調整ができず、また、再使用のため、スクリーンに附着したインクと感光膜を洗剤で洗い落していたが、従来の洗剤では完全な洗滌は困難でスクリーンの目詰りのためスクリーン版は三回乃至四回程度の再使用しかできなかった。この改良案として強力な洗滌剤が作られこれにスクリーン版を浸漬することによってインクと感光膜の剝離を行うことが試みられたが、インク等の除去と同時にスクリーンの張設枠への固着用接着剤も一緒に洗い落とされることになりスクリーン版の再使用を困難ならしめ、而かも従来のアルミニウム製張設枠では該アルミニウム枠が洗滌剤で腐蝕すると云うことにもなると云う欠点を免れなかった。

本考案は叙上の欠点を除去するためなされたもので、以下、これを実施例である図面により詳述すると、角筒材により適宜の大きさをなす平面口字形の張設枠(1)を形成し、該張設枠(1)の各側辺面に、複数のボルト(2)……

を適宜の間隔をもつて遊転可能なようにそれぞれ横貫し、各ボルト(2)に螺挿したナット(3)に、張設枠(1)の内周壁に貫設し、内端上に係合突子(4)を有する引張金具(5)の外端を固設するとともに、スクリーン(6)の四周端を平板状をなす巻取バー(7)に止着巻回して、該巻取バー(7)部分を、所要長をなす複数の外向き細U字形のテンションバー(8)内に挿入懸止して、各テンションバー(8)下の外側に突設している係止片(9)の孔(10)を、前記引張金具(5)内端上の係合突子(4)に係合してなるものである。なお、図中(11)はボルト(2)の貫設部附近に穿孔したのぞき孔兼用水抜孔である。

本考案は上述のような構成体よりなり、その耐薬品性金属の張設枠(1)はアルミニウム材により、また、

14.
15

6 平打

スクリーン(6)は、ナイロン、テトロン、ステンレス等の各高メッシュ織条よりなるものである。

しかして、スクリーン(6)は、その四周端を巻取レバー(7)に止着巻回して、この巻取レバー(7)の止着巻回部分を、複数の外向き細U字形をなすテンションバー(8)内に挿入懸止ししかる後、各テンションバー(8)下外側の係止片(9)にある孔(10)を、張設棒(1)の内周に突設している引張金具(5)内端上の係合突子(4)に係合してから、各ボルト(2)を遊転することにより、ボルト(2)に螺挿したナット(3)を、張設棒(1)の外側方向、即ちボルト(2)の頭方向へ移動させることによりナット(3)に固設されている引張金具(5)を外側方向へ移行させ、これによつて、

／ 字附編

テンションバー(8)と巻取バー(7)を介して、スクリーン(6)の四周にテンションをかけ、スクリーン(6)に任意の張設度をもたせて、スクリーン(6)を張設枠(1)内に張設する。このようにすると、スクリーン(6)の張設度を任意に調整することができるとともに、スクリーン(6)の張設には接着剤を使用していないから、スクリーン(6)を張設枠(1)と共に何回でも水洗いすることが可能であり、また、張設作業も簡単、かつ迅速になされるから、便利なものとなり、しかも、構成も簡単であるから、安価に提供することができる。

なお、前記巻取バー(7)にスクリーン(6)を巻き取るに当つては、先づ巻取バー(7)の片面に弱い接着剤(例えば、市販の商標住友スリーエム・スプレー糊SS)を塗っておくことが好ましい。

4. 図面の簡単な説明

図面は本考案に係るスクリーン版の実施例を示すもので、

第一図は平面図、

第二図は第一図 A - A 線拡大断面図で、

第三図は図上に於けるテンションバーの平面図である。

(1)は張設枠

(2)はボルト

(3)はナット

(4)は係合突子

(5)は引張金具

(6)はスクリーン

(7)は巻取バー

(8)はテンションバー

(9)は係止片

10は孔

11はのぞき孔兼用水抜孔

12はボルト抜け止め用ピン

実用新案登録出願人

日本プロセス工業株式会社

代理人 弁理士

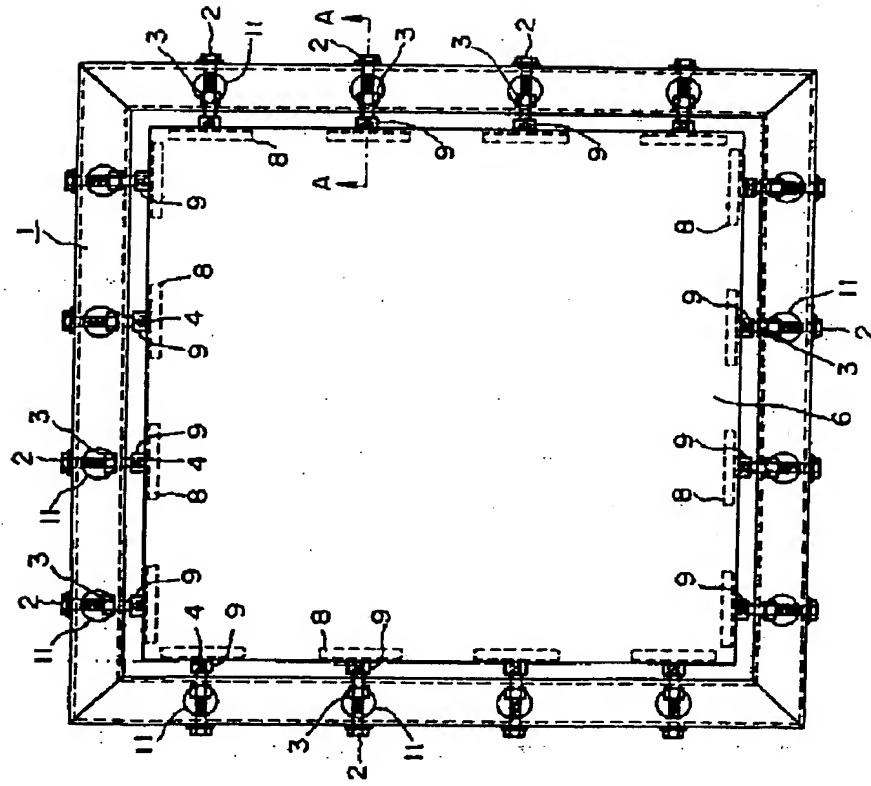
廣

見

敏

剛

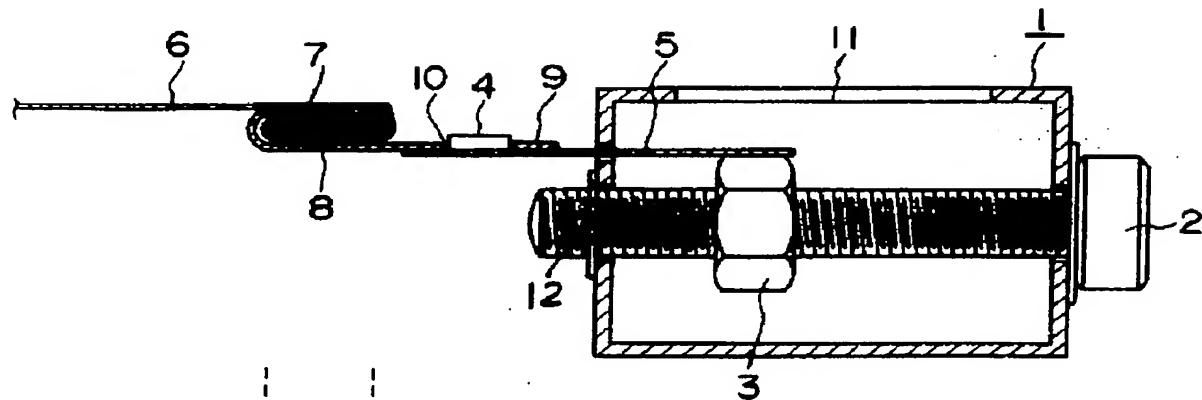
第 1 図



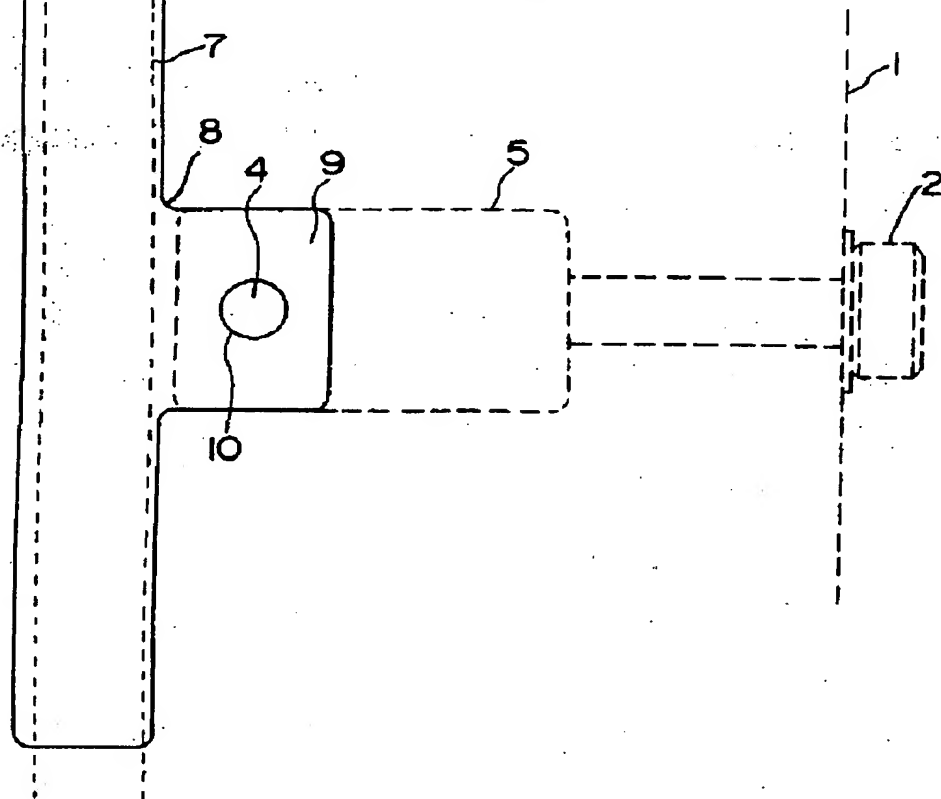
1980.3.1/2

代理人 藤 見 敏 郎
藤 見 敏 郎

第 2 図



第 3 図



5、添附書類の目録

- | | |
|--------------|-----|
| 1. 明細書 / | 1 通 |
| 2. 図面 / | 1 通 |
| 3. 願書副本 | 1 通 |
| 4. 委任状 / | 1 通 |
| 5. 出願審査請求書 / | 1 通 |

~~6、前記以外の考案者、実用新案登録出願人~~

~~(1) 考案者~~

~~(2) 実用新案登録出願人~~

1365 33